

平成十九年

一、市町村史・地区史

市史では、坂井市が旧坂井町内の文化財や集落誌の内容をまとめた『新修坂井町誌通史編』を発行した。これは二〇〇五年の資料編に続くもので、新資料や最新の研究成果を加え体系的に編集し、『歴史』『考古資料・文化財・民俗』『集落誌』の三部から構成されている。

町史では、美浜町が町誌の七冊目『わかさ美浜町誌 記す・遺す』と題し、町内に残る古文書を解説し、中世から近代までの人々の暮らしぶりをまとめた。同じく美浜町から、美浜文化叢書刊行会が浅妻正雄の著書を再編集し、集落に関する年中行事や風俗、古文書からみた歴史、集落に伝わる昔話や遊びなどを紹介した冊子『わかさ美浜ふるさと散歩』を発行した。清水町が『清水町史続巻用中近世資料第四輯』を発行した。

地区史では、福井市円山公民館が住民四十人が執筆に携った手作りの地区史『円山地区の昔と今 円山東村誕生から』を発行した。福井市啓蒙公民館は地区の歴史や風習、昔話などを小学校高学年にも読みやすい文章でまとめた地区史『ふるさと啓蒙』を発行。他に殿下地区の歴史や伝承芸能等をまとめた『殿下の里探訪記』（中村准著）、福井市豊公民館が『豊地区誌』（増永迪男・中島美千代共著）、福井市日新公民館が『日日に新たに―日新三十年のあゆみ―』（日新地区三十周年記念誌編集委員会）を発行した。大野市では南新在家地区の歴史をまとめた冊子『わが郷南新在家の歴史』（松田政治著）や、大野市内の峠道に現在も残されている石仏や史跡の写真も盛り込み史実をまとめた『大野歴史の道』（小倉長良著）が発行された。越前市の南中山地区は史跡や伝統行事を再認識してもらおうと冊子『南中山のみどころ』（南中山地区自治振興会編）を発行した。勝山市の国史跡平泉寺の千年におよぶ歴史を分かりやすく紹介する漫画本『白山平泉寺物語』が発行され、永平寺

町でも『相模 上相月区誌』（上相月区誌編纂委員会編）が発行された。二、各時代史

遺跡調査発掘関係資料としては、福井県から『福井県発掘調査報告会資料 第二十一回』『吉野塚遺跡（福井県埋蔵文化財調査センター編）』『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告九』（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編）、福井市から『免鳥古墳群（福井市教育委員会編）』『あわら市から『南稻越遺跡（あわら市教育委員会編）』『小浜市から『小浜市重要遺跡確認調査報告書1』『同2』（小浜市教育委員会編）、南越前町から『史跡杣山城跡3 居館跡発掘調査概要報告書』（南越前町教育委員会編）が発行された。

古代史では平成十九年に即位千五百年を迎えた継体天皇に関する出版が昨年に引き続き相次いだ。こしの都千五百年プロジェクト実行委員会が四回シリーズで行った記念講演会の記録集『継体大王ロマンを語る！』を発行、坂井市三国町の池上自治会が集落内にあり継体天皇をまつる伊伎神社と継体天皇とのいわれを紹介する小冊子『伊伎神社と継体天皇』を発行、昭和十年に郷土史研究者としても名高かった石橋重吉が出版した『継体天皇と越前』が地元の記事事業実行委員会の手によって復刻された。味真野郷と周辺の継体天皇伝承（味真野史跡保存会編）は伝承の地など五十一箇所を詳細に紹介し、継体天皇ゆかりの地花筐自治会では一九八四年に作成したガイドブック『粟田部史跡ガイド男大迹部の里』を一新した。福井市郷土歴史博物館の特別展の図録『古典が語る継体天皇』は日本書紀、古事記の継体天皇関係の部分の現代語訳や参考資料を収録した継体天皇を学ぶのに役立つ一冊となった。福井新聞社は『大王がゆく 継体天皇即位千五百年』として半年間の新聞連載記事を中心に一冊にまとめた。また、『継体天皇と即位の謎』大橋信弥著は、継体は近江で生まれ越前で育ったという『日本書紀』の記述が信頼できるとの立場から福井県内の史跡や豪族の動向にも詳しく触れながら実像に迫っている。県は継体天皇の生い立ちや業績などを照会するDVD『継体大王物

語」を制作し県内小・中学校に配布した。他には大野市歴史博物館の岩井孝樹館長が泰澄大師や平泉寺を等の研究をまとめた論文「泰澄と白山越前修驗道」を執筆。

中世では美浜町文化財保護・町誌編纂室は国吉城址周辺への理解を深めてもらおうと『佐柿国吉城ブックレット』の刊行を開始し、『佐柿国吉城を歩こう』、『佐柿国吉城』、『戦い物語』を発行。

近世では、福井市歴史ボランティアグループ「語り部」が江戸時代の福井御城下にあつたが、戦災や震災などで忘れられて三十三ヶ所観音霊場を調査し、『福井御城下三十三ヶ所観音霊場』を発行した。福井藩校・明道館に注目して近代教育は幕末・維新时期をとおして成立したとする研究をまとめた『幕末維新时期における教育の近代化に関する研究 近代学校教育の生成過程』(熊澤恵理子著)が発行された。

現代では、敦賀市が杉原千畝の「命のげざ」で敦賀市に上陸したユダヤ難民の行動や市民との交流など足跡をまとめた『人道の港敦賀』を発行。また同市の郷土史研究グループ「つるが女性史の会」が激動の時代を生き抜いた敦賀の女性たちの歩みをまとめた『女のくらしの百年 次代へのメッセージ』を発行した。

### 三、各分野団体史

学校教育関係では、県立福井商業高等学校が創立百年を記念し、『福商百年史 目で見る福商の百年』、敦賀気比高等学校が『敦賀気比高等学校二十年史』を発行。他に『福井医科大学二十周年記念誌』(福井医科大学開学二〇周年記念誌編集委員会編)、『福井大学医学部看護学科開設十周年記念誌』(福井大学医学部看護学科開設十周年記念誌編集委員会編)、福井赤十字看護専門学校が閉校にあたり記念誌『福井赤十字看護専門学校八十二年の歩み』を発行した。福井県高野連は結成六十年を記念し、『福井県高校野球六十年史』を五十年史に引き続き発行。越前市の武生高校野球部OB会は明治期からの年代別に写

真とスコアを掲載した『武生高校野球部百年史』を発行。他には、丹南地区の建築物を紹介しこれまでの歩みを振り返った『南越の匠 福井県建築士会南越支部設立五十五周年記念誌』(福井県建築士会南越支部編)、『福井県絹織物工業共同組合五十年史』(福井県絹織物工業協同組合編)、『福井県体操協会六十年史』(福井県体操協会六十年史記念誌編纂委員会編)、敦賀商工会議所が創立百周年を記念して『敦賀商工会議所百年史』、『敦賀商工会議所2007』、『支愛 民生委員制度創設九十周年記念』(鯖江市民生委員児童委員協議会連合会編)、『自助協力 福井市九頭竜民生委員児童委員協議会創立五十周年記念誌』(福井市九頭竜民生委員児童委員協議会編)、『光道園五十年のあゆみ』(光道園創立五十周年記念誌編集委員会編)、『半世紀のあかしー五十周年記念誌』(小浜市郷土研究会編)、『市子連三十年史』(小浜市子ども会育成連合会)などが発行された。

### 四、民俗・文化財・その他

民俗関係では、小浜市から三百年以上の歴史があり福井県無形民俗文化財に指定されている若狭地方最大の秋祭りの記録集『放生祭(まち)小浜・いきまち再生委員会編』と、一年間地中に埋めた木の実の発芽状況からその都市の農作物の豊凶を占う神事「オイケモノ」の様子をまとめた冊子『加茂神社 上の宮おいけもの神事録』(加茂神社上の宮おいけもの神事保存会編)が発行された。勝山市では北谷町谷の方言百二十語を収録しまとめた冊子『谷の方言』が発行され、若狭町海士坂では読みが難しいことで知られる地元集落名や小字名の由来を調べた冊子『海士坂 集落名・耕地名の由来とくらしを探る』(内藤増之著)を発行した。

文化財関係では、越前市武生公会堂記念館は市内の主要文化財を紹介する資料集『いまたての華 たけふの粋』を発行。旧大飯町と旧名田庄村が合併してできたおおい町は国、県、町の文化財に指定されている文化財を鮮明なカラー写真で紹介し、時代背景など詳細な解説を添えた図録『おおいの文化

財』を発行。越前町織田の剣神社は国宝の「梵鐘」などや同神社所蔵の文化財を一堂にまとめた冊子『越前織田 剣神社の文化財』を発行。

人物誌では、鯖江市にある真宗山元派本山證誠寺が二十世法主で同寺中興の祖とされる善超上人を主に紹介する寺史『證誠寺史』、越前市武生公会堂記念館が開催した越前市ゆかりで天台真盛宗開祖・真盛上人の足跡をたどる特別展の図録『乱世を生きる―真盛上人展』、明治期に活躍した政治家で衆議院議長を務めた杉田定一と越前有数の豪農だった杉田家の書簡や証文など文書約一万二千点を整理した『杉田定一文書目録』（日本経済史研究所編）、福井地震で倒壊した丸岡城再建に心血を注いだ元丸岡町長をしのぶ冊子『天守と俱に―友影賢世翁』などが発行された。また越前漆器における初の日展入選作家、伝説の沈金師真保由斎の回顧展が開催された。

地誌関係では、十一年ぶりに全面改訂され、新たに加えられた山を含め嶺南から嶺北まで五十四の山を紹介した山岳ブック『福井県の山』が発行された。

自然科学・技術関係では、約四十年間クラゲの生態を研究してきた研究成果をまとめた『エチゼンクラゲとミズクラゲ―その招待と対策』（安田徹著）、若狭の海の豊かさや食文化を解説している『若狭のおさかな』（吉中禮一編）、特別天然記念物コウノトリをはじめ、鳥獣保護活動をまとめた『春を待つ鳥たち』（林武雄著）、『九頭竜川鳴鹿大堰事業誌』（九頭竜川鳴鹿大堰事業誌編集委員会編）が発行された。また勝山市は市内に現存する歴史的に貴重な建物百四十三件を調査した報告書『勝山の歴史的建造物』と、江戸時代後期に建てられた勝山市の有力農家の住宅調査報告書『木下家住宅 福井県指定有形文化財（建造物）』を発行した。

その他に県立大学の公開講座「言葉と社会」の修了者が中心となって、歴史、文化、民俗、芸能スポーツなど幅広い執筆が続いた文集『若狭の記録』が第五集もって終刊した。

## 五、歴史研究施設の動向

研究施設の新築や改装などの目立った動きはなく、各館ともに地元ゆかりのテーマを取り上げた企画展を行なった。また一乗谷朝倉氏遺跡資料館の出土品二千二百四十三点が国指定重要文化財になった。

個人史、逐次刊行物など割愛した資料もありますのでご了承ください。